

「良い医師」ってどんな医師？



常陸大宮済生会病院
内科医員 高石 亮太

皆さんにとって「良い医師」とはどんな医師でしょうか。患者さんのお話を傾聴する医師、確かな腕を持つ医師、テレビによく出るような有名な医師等、患者さんそれぞれに異なるかもしれません。私自身、医師として未熟でその答えを見つけていませんが、学生時代を振り返れば「良い医師になる」ことを志しこの道を歩み始めたはずです。そして医師になり、多くの患者さんの医療に対する不満に接し、また組織の理論や制度の壁などに何度も苦悩しました。その度に、良い医師とは何かという問いへの答えはますますわからなくなりました。しかし私が忘れずに持ち続けているものがあります。それは6年前のネパールでの経験でした。

■ネパールでの研修で得たもの

私はチョウジャリというネパールの僻地の病院で研修をしました。数人の若者が病人を背負って山を越え谷を越え数日かけて病院へたどり着く、といったようなところで、電気もガスもなく、診療設備も充実していません。しかしそこでの研修はとても学びが多く、現地の医師から教わった「僻地で働く医師が心がけるべき8つのこと」を、私は今でも一番大事にしています。その8つを皆さんにご紹介したいと思います。

- ①親切であること
- ②知識を分け合うこと
- ③患者さんの信条を尊重すること
- ④自分自身の限界を知ること
- ⑤学び続けること
- ⑥自分が教えることは自分も実践すること
- ⑦喜びのために働くこと
- ⑧前を見ること

これは「僻地で働く医師の心得」として教わったものですが、場所に関係なく世界中の医師が心がけるべきことではないでしょうか。良い医師とはどんな医師か、そのヒントはこの中にあると思っています。しかしこの8つをいざ実践するとなると難しさを実感します。特に①などは、最もシンプルなようですが抽象的で、何が親切かを考え始めると、哲学的な迷宮に陥りそうになります。しかし親切であるためには患者さんをよく知ることが重要で、そのために必要なのは医学的知識ではなく、社会学や文化人類学、心理学、さらには文学や芸術学だと言われています。

日進月歩の医学の中であって、医学だけでない領域も巻き込みながら、「良い医師」であるべく地域の健康を考えていきたいと思っています。皆様どうぞ、よろしくお願いします。

※救急受け入れの人数を
月別に表しています。
(休日・時間外を含む)

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

